

規制緩和と安全：タクシー需給調整規制撤廃のケース

明治学院大学 経済学部

斉藤都美

概要

2002年2月1日にタクシーの需給調整規制が撤廃された経験を「自然実験」とみなし、規制緩和による事業者の新規参入・車両台数の増加が走行キロ当たり人身事故件数に与えた影響を分析した。公表ベースの都道府県データから以下の結果を得た。(1) 他の要因をコントロールしつつダミー変数で規制緩和前後を比較すると、規制緩和後の人身事故件数は年間4,700件程度減少している。(2) タクシー事故は規制緩和「前」の1990年代に急増したが、その一因として需給調整・運賃規制によって作り出された超過供給が空車率を上昇させたことが挙げられる。(タクシーは実車時よりも空車時の事故が多い) (3) このように規制のあり方に伴い変化する事故コストは、物損事故まで含めれば無視できない大きさであるから、タクシー規制政策議論にあたって考慮されるべきだ。